

全国協議会 ニュース

2018年9月1日発行 第315号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

移植患者の社会復帰が主要目標に追加 国の委員会「目指すべき方向性」議論

8月20日(月)厚生労働省の造血幹細胞移植委員会が開催され、法律に定める事業の取組状況、成果と課題、目指すべき方向などが審議されました。全体の課題と目指すべき今後の方向性では、新たに「移植患者が地域で安心して暮らせるよう、関係機関と連携して社会復帰できる環境を整備する体制の構築が必要」と明記されました。医療の進歩にあわせて、移植患者が社会的にも普通に暮らす時代の実現に向けて対策が進むことを強く期待します。

現状、取組について

・学会が移植施設を認定

⇒ 移植レベルの均てん化

2018年4月1日より、日本造血細胞移植学会の定めた移植施設認定基準をクリアした全国222診療科が学会認定されました。今後、非血縁者間造血幹細胞移植は認定施設でのみ施行されます。学会の移植施設認定基準は、①移植施設に関する要件、②移植チームの構成、連携体制、マニュアル等に関する要件、③造血幹細胞移植の実績に関する要件、④血縁ドナーからの造血幹細胞採取に関する要件、⑤その他、移植データの登録などであり、移植レベルの均てん化が図られます。

・日本骨髄バンクの取組

⇒ コーディネート期間短縮化

2018年4月から「初回検索ドナー人数が5人から10人に増加された」ことから、期間短縮化の効果が期待されています。また、新コーディネート支援システムが2019年4月から稼働予定で、採取施設は手術室の空き枠を直接入力することが可能となるなど、情報共有が進む予定です。なお、コーディネート期間の中央値は、2015年の146日から2017年132日へと14日短縮されています。(3面、図1)

・同種移植後の生存患者数の増加

⇒ 5年で約4,000人増加

日本造血細胞移植データセンターの統計分析によると、同種造血幹細胞移

植後の生存患者数は2011年14,000人⇒2016年18,000人と約4,000も増加しています。(3面、図2)※同種移植：血縁者及び非血縁者間の骨髄・末梢血幹細胞、さい帯血移植の総称

・同種移植患者の就労状況

⇒ 状況把握と就労支援の取組

男性ではフルタイムの就業が多く、移植後の年数ごとに就労割合が増加。女性ではパートタイムと主婦が多く、移植後の年数ごとに就労割合が増加。転職状況は、約半数が移植前の状況と変わらず、一定の割合で転職や部署移動がある。転職、休職、退職は移植後の早い時期に見られ、男性より女性で多く見られる。(3面、図3・4)

全体の課題と目指すべき方向性

・全体の課題

- ①移植医、その他移植医療を支える職種を育成する体制が、学会の移植認定診療科の増加とともに確保されつつある。⇒ 人材養成がまだ不足している地域があるか、評価が必要。
- ②非血縁者間骨髄移植のコーディネート期間は改善傾向にある。⇒ 骨髄の早期採取への取組は継続して行う(3面下部へ続く)

啓発グッズをご活用ください

行楽の秋・骨髄バンク推進月間の秋！ 啓発グッズとしてミニハンカチ（今治のブランドタグ付き）、クリアファイル、ティッシュなどいかがでしょう。全国協議会事務局までお問い合わせください。



骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(8月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2018年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,869	2,983	487,627	742,355
患者登録者数	234	263	3,930	54,317
移植例数	101	102	—	22,189

■7月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／827人、献血併行型集団登録会／2,118人、集団登録会／7人、その他／31人

■7月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,781人／20代 72,783人／30代 136,596人
40代 209,220人／50代 64,247人

■7月の20歳未満の登録者489人

■7月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：514件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

日本骨髄バンク理事長に小寺良尚さん就任

本年6月、公益財団法人日本骨髄バンク理事長に就任された小寺良尚さんを全国協議会の田中重勝理事長が訪問し、インタビュー対談を行いました。



田中重勝

小寺良尚さん

小寺良尚さん

1942年生まれ（現在76歳）

1967年 名古屋大学医学部卒業

1985年 名古屋第一赤十字病院 内科部長、骨髄移植センター長

2008～2018年 愛知医科大学教授

2018年～現在、愛知医科大学名誉教授 同大学病院造血細胞移植センター
アドバイザー

東海骨髄バンク及び日本骨髄バンク設立と運営に尽力、日本造血細胞移植学会理事長、厚生労働省研究班班長、アジア・太平洋造血細胞移植学会理事長、世界造血細胞移植ネットワーク理事長など歴任

田中 日本骨髄バンク理事長へのご就任、本当にご苦労様です。就任後の率直なご感想をお聞かせください。

小寺 日本骨髄バンクの最終責任者ですので、身の引き締まる思いです。事業開始当時からそれぞれの立場で、今も元気にご活躍の多くの方々に支えていただきながら重責を果たしたいと思っています。本日は田中さんからインタビューを受けることに感無量の気持ちです。

一番の思い出は？

田中 小寺先生は、30年以上前から骨髄移植のパイオニアとして活躍され、日本での造血細胞バンク事業の中心に携わってこられています。これまでで一番大きな出来事、思い出は何でしょうか？

小寺 色々ありますが、やはり1989年秋の東海骨髄バンクでの最初の非血縁骨髄移植ですね。私は第1例目の移植患者さんの主治医チームを指導する立場でした。移植患者さんは今も元気で活躍されておられます。最初の例での成功は、関係者の気持ちを奮い立たせ、その後も今日まで続く感動となっています。田中さんは、あの時の最初のドナーさんですね。ありがとうございます。

田中 あの時からもう30年近く経ちました。入院した名古屋大学附属病院では、先生や看護師さんが引き継ぎごとに、入れ替わり立ち替わり次々と挨拶に来られびっくりしました。まるで変わった動物を見に来たの

かなーとも思いました。(笑)

小寺 それは、見ず知らずの患者さんに骨髄提供される非血縁者ドナーの方が、この日本にもおられる。その最初の現場に立ち会ったことに、みんなが感動したことだからだと思います。だからそれ以来、全国どこの病院でもドナーの方へきちんと挨拶し敬意をもって接することになりました。

当面の課題は？

田中 さて、新理事長として考える当面の最重要事項、課題は何でしょうか？

小寺 私は、当面の課題は4点あると思います。骨髄バンクはドナー安全が全ての前提となっています。ですから1番目は「①ドナー安全の厳守、ドナー負担の軽減」です。次いで「②患者さんにとって適正時期での移植の実現、コーディネート期間の短縮化」です。さらに「③骨髄バンク業務と財務の適正化」です。最後に「④骨髄バンク将来構想の深化」と考えております。こうした課題の実現に向けしっかり取り組んでまいります。

口腔粘膜採取の導入は？

田中 骨髄バンク事業も25年を経過し、更なる発展のためにリニューアルすべき点が多くみられます。例えば、ドナー登録検査は採血ですが、欧米では口腔粘膜（スワブ）採取が一般的と聞いています。どうお考えですか？

小寺 確かに口腔粘膜でのDNA検査は世界標準となっており、検討すべ

き課題とされます。骨髄バンクのドナープールは「良く理解し提供意思を有するドナーのHLA情報が重要」です。簡単な登録方法の導入で、ドナー登録者数が増えるだけで提供に結び付かないと困ります。一方、ドナー登録での口腔粘膜採取の導入は「骨髄バンクは、痛くて大変だ」というイメージから、明るいイメージに変えるきっかけになるかも知れません。

役割分担の明確化

田中 ドナー登録受け付けでは、献血会場での呼びかけ(声がけ)と説明は、全国各地のボランティアが「日本骨髄バンクの説明員」として行っています。いつも日本赤十字血液センターの献血業務に差し障りがでないよう気を使ってやっていますが、トラブルや不満も出されています。ドナー登録推進活動(呼びかけ・説明)は、法律での役割分担の規定化も必要です。是非とも、厚生労働省、日本赤十字社との協議をお願いします。

小寺 これまでも仕組みや手続きなどは、関係機関との協議により切磋琢磨してより良くなってきています。みんなが歩み寄って行くことが必要なのだと思います。厚生労働省、日本赤十字社、日本骨髄バンクとの三者会議が開催されていますので、そうした折に協議したりして行きましょう。

相互協力・連携は？

田中 患者さんにとってより良い骨髄

バンク事業とするため、国・地方自治体、日赤、医療機関、ボランティアとの連携はどうされますか？

小寺 厚生労働省、地方自治体、日赤、学会、研究班等とは、これまで以上に連携強化すよう努力してまいります。ボランティアの皆様方が、骨髓バンクの生みの親であることは、私のみならず日本骨髓バンクの職員全てが十分認識しています。日本骨髓バンクとは組織は別ですので、一心同体ならぬ「一心異体」で、この事業を進める関係者だと思っています。

資金確保も課題

田中 私ども全国協議会としても、全国各地のボランティア団体と協力連携していくよう努力しています。全国が一体となった運動にして行きたいと思っています。しかし、全国協

議会と各地団体とも資金難や活動力低下などの困難に直面しています。海外の状況はどのようになっていますか？

小寺 ドイツやアメリカなどでは、患者さんやボランティア団体の運動が非常に盛んで、企業等がスポンサーとして資金的サポートしています。熱意あるボランティアの方が資金獲得するため各方面に働きかけしており、日本では考えられないほどの成果をあげています。とても参考になると思われます。

ボランティアへのメッセージは？

田中 日本の骨髓バンク設立運動はボランティア活動から始まり、その後の発展にも大いに寄与していると思っています。今後のボランティアとの関係について、そして全国のボ

ランティアへのメッセージをお願いいたします。

小寺 毎年の日本骨髓バンクの事業報告には、ボランティア活動をしっかりと位置づけしています。ボランティアの皆様には、今後ともなお一層の協力連携をお願いいたします。造血幹細胞移植医療は、輸血と並んで“病のときの助け合い”のシンボルであり、また、最もシンプルで効果的な再生医療、細胞治療として今後とも必要とされ発展して行くでしょう。国民すべてがこの治療法を享受できる仕組みを創られるに当たっては、ボランティアの方々の運動が大きな役割を果たしました。全国の皆様には、今後とも日本骨髓バンクをあたたく見守り、共に歩んでくださることを心より願っております。

(1 面からの続き)

- ことが必要。
- ③地域連携が進んでいる地域と未だ十分に進んでいない地域がある。⇒引き続き、地域連携は強化が必要。
- ④その他 ⇒ 長期生存患者の増加に伴う適切なフォローアップ体制が必要。社会復帰支援も含めた移植後患

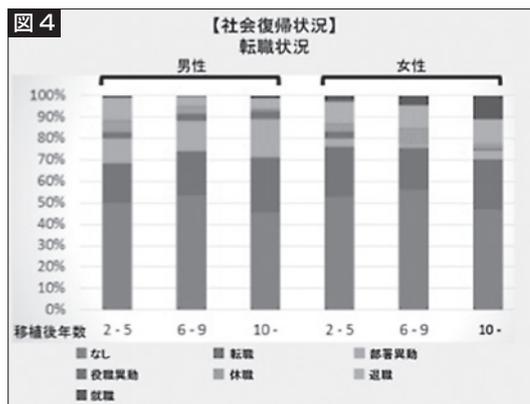
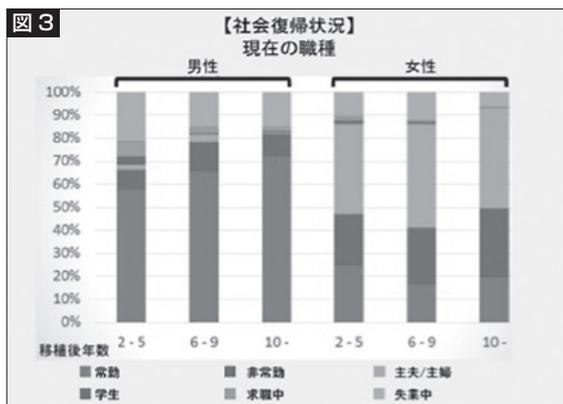
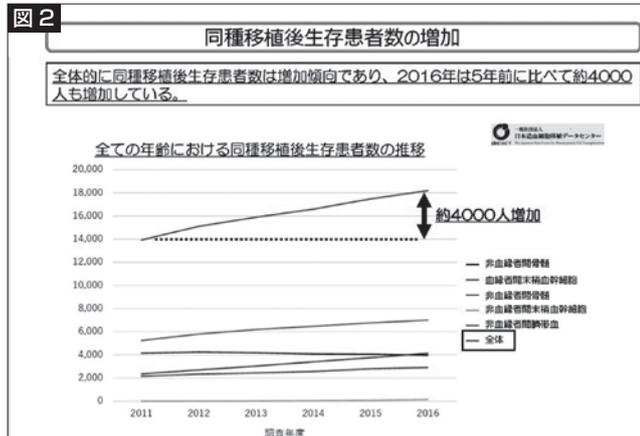
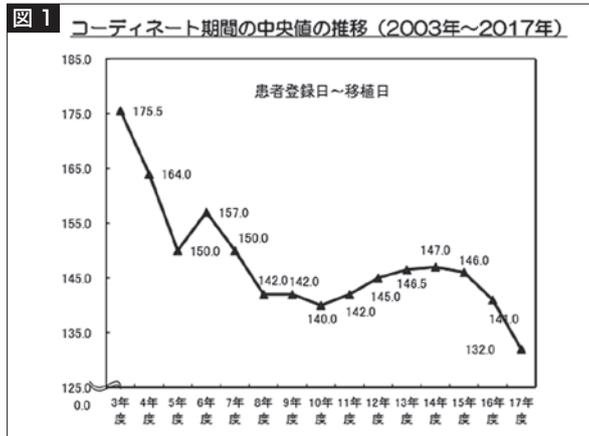
者の生活の質の向上のための取組も重要。

・目指すべき方向 (④今回新設)

- ①造血幹細胞移植を必要としている患者に対して、適切な時期に、適切な種類の移植を提供できる体制
- ②どこの地域にいても、誰でも、より安全に造血幹細胞移植を受けること

ができる体制

- ③移植を受けた患者が、移植後に生活の質を保ち、長期フォローアップを受けることができる体制
- ④移植を受けた患者が、地域で安心して暮らせるよう、関係機関と連携して患者が社会復帰できる環境を整備する体制



※図1～4の出典(厚生労働省HPより転載、厚生労働省委員会資料)
 ※図3・4は「1996年から2006年の間に造血器疾患に対して成人診療科で同種造血幹細胞移植を受け、造血幹細胞移植登録一元管理プログラムに報告されている症例のうち、移植時年齢16歳以上かつ調査時年齢20歳以上で、調査時点で移植後2年以上非再発生存している患者を対象に調査。

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

埼玉

航空自衛隊熊谷基地で献血併行ドナー登録会、114人が登録

7月2、10、11、13日の4日間、航空自衛隊熊谷基地にて献血併行ドナー登録会が行われました。今回の対象者は、教育隊を卒業する研修生655名で、10代後半から20代前半の方々でした。

登録会に先がけ、6月28日(木)に研修生に向けてのドナー登録説明会と大谷貴子さんの講演会が開催され、日本骨髄バンクと埼玉赤十字血液センターから3名の職員、当会からは4名

のボランティアが参加しました。講演は短い時間でしたが、大谷さんの熱弁は研修生の心に伝わったと思います。

4日間の献血会場には、毎日、受付開始直後からたくさんの研修生が並ばれ、説明員が声かけをして登録申込書記入のお願いをしました。(事前説明会をしているので説明は不要でした。)

国民のために働く意識が強い自衛官だからこそ、献血や骨髄バンクにも協力的なんだと思いました。今回の説明会及びドナー登録会は、熊谷基地司令をはじめ教育群司令、埼玉地本部長、そして埼玉県十字血液センターのご支援により実現することができました。



ご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

皆さんのご協力のおかげもあり、4日間での登録者は114名にもなりました。しかも、登録者は20歳前後の方でしたので、若年層の拡大に貢献できたと思います。本当にありがとうございました。(埼玉の会 佐々木 敏子)

いのちの輝きを皆さまへ



『いのちの輝き展』は、白血病などの病と闘いながらも「生きたい」という強い意志を絵やメッセージに込めた作品や、骨髄バンクを通じて生きる望みをつないだ患者さんとドナーさんが交換した手紙の展示会です。多くの皆さまにご覧いただくため、会社や自治体での展示物として貸し出しをしています。地域での普及活動として是非ともご活用をお願いいたします。

ご覧になった方からの感想をご紹介します。

『骨髄の提供を受けた方、ドナーの方の生の声を目にし改めて「骨髄バンク」の存在の大切さを実感しました。中でも小学1年生の方のお話パネルが子どもなりの視点で描かれていて胸が詰まる思いでした。心から応援したくなりました。子ども心に隣の部屋の子が亡くなったことが辛かったこともよ

く伝わりました。

そんな治療がうまくいかず亡くなる子がない世の中になるよう骨髄バンクの登録が一層推進されることを祈っております。

自分も30代でドナー登録をしまし

たが、そろそろ卒業の年齢になります。これからは20代の娘たちにドナー登録を勧めてバトンタッチ出来たらと思います。骨髄バンクのますますの発展をお祈りいたします。』

(千葉の会主催のパネル展にて)

基金給付を受けた方からのメッセージ

志村大輔基金(精子保存支援)

長い間ご支援いただきありがとうございました。息子は、移植前の強い抗がん剤の後遺症で現在も回復に向けて自宅療養をしております。重い病気は我が家に関係ない。などと決して言えないものだとも痛感いたしました。病気で辛い思いをしている患者や家族のために、日々活動をしてくださる皆さまに心から感謝申し上げます。これからも患者や家族の希望となり、末永い活動

を続けてくださることを願ってやみません。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(関東地方在住 患者の母)

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

こちらの基金の事を移植コーディネーターさんから「もしかすると助成を受けられるかも？」と教えて頂きました。主人が白血病になり、小さい子どもが3人おり、金銭的に毎日、少しずつやりくりして生活してまいりました。なので、助成金を出して頂き本当に助かりました。本当にありがとうございました。(関東地方在住)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●7月21日~8月20日(敬称略)

●一般 株式会社チェノワ情報システムズ 現金 21,295円 塩谷 圭 現金 1,000円 匿名 現金 5,000円 若木 貞子 切手 4,200円	●佐藤きち子患者支援基金 神奈川骨髄移植を考える会 現金 100,000円 匿名 現金 2,000円	●募金箱 株式会社クスリのアオキ 現金 331,800円 株式会社サカタのタネ 現金 250,000円
●白血病患者支援基金 福原 卓也 現金 5,000円	●こうのとりのマリン基金 ノバルティスファーマ株式会社 現金 100,000円	●かざして募金 現金 1,300円

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会